**報告書：**

**２０１６年１０月１９日（水）**

**在パース日本領事館における福島県セミナーに参加して**

報告者：パースふくしまの会　野坂　薫

報告日：２０１６年１１月１６日

２０１６年１０月１９日（水）、在パース日本領事館において福島県の産物・観光が関わる可能性があるステークホルダーを招待して開催されたセミナーに参加して得た情報、経験、または提案を以下の通り報告する。

1. **総領事館での参加者のやり取りや意見と参加者の評価**

報告者は主に橋本局長の通訳として参加者とやり取りを行った。様々な意見を伺うことができたが、主に：

* ほとんどの参加者が福島県に対して「大災害被災地」、あるいは「原発事故発生地」との認識はなく、他都道府県同様、「日本のどこか」という認識であった。
* 福島県がスキーリゾート地であることを初めて知った参加者が多く、この点をもっとPRすべきだ、との意見が多数あった。
* 放射能に関する情報量・詳細と観光や産物に関する情報のバランスによって情報の受け手の印象は変わるかもしれない、との意見も聞かれた。（放射能の情報は量や内容によって受け手の情報理解が難しくなり、そのことにより観光・産物に関する情報が受け手に届きにくくなったり、あるいは情報が薄まったりする可能性がある、との指摘があった。）

1. **福島県の物産や観光のPRに関する提案**

スキーを主観光商品と考えた場合ターゲット市場は若年層にあたり、このマーケット開拓はインターネットやソーシャル・ネットワークを使用したものが効果的と考えられる。また、現在の市場規模を考えると、まだまだ拡大できる可能性は高く、ターゲットのより細かなプロファイリングが効率的な情報到達の手段開発に役立つと考えられる。

しかし、スキーのみに焦点を当てた市場開拓はすぐに限界に達すると思われ、今から別のターゲット開発に着手するべきと提案する。特に、日本の桜、紅葉は潜在旅行者の年代に関係なく魅力のある観光商品であり、これらの「自然の美」をキー商品に据えた上で、年代別の観光商品開発（例えば若年層には「桜と春スキー」、中高年齢層には「桜と春山トレッキング」等が考えられる）と情報発信の方法を開発していくべきであろう。

また、昨年「パースふくしまの会」から報告させていただいたアンケート結果が今回の参加者にもあてはまり（「福島県＝被災地、原発事故地」という認識が薄い）、今後福島県をアピールしていく上では自県の良いところを自信をもって前面に押し出していくべきと提案する。勿論、甚大な被害を受けた県であり、また未だに自宅に戻れない方、身内をなくされた悲しみが癒されていない方がいらっしゃることは忘れてはならず、観光の開発を考える際には必ずこういった方々の心情も考慮すべきである。その上で、福島県のできるだけ多くの人々が元気になるような観光策の開発に智恵を絞るべきである。

1. **オーストラリア人の嗜好**

オーストラリアで日本食と言えば「テリヤキ味」が筆頭に挙げられる。シドニーなどの東側でも伝統的な日本料理を出す店はほとんどなく、オーストラリア人好みの味に変化させた日本食が現地では日本食として楽しまれている。こういった状況下、多数のオーストラリア人に福島の味を広めたい場合は、味の欧米化は必要になると考えられる。しかし、個人的には本当の日本の味、福島の味を知ってもらうことは非常に大切と感じており、そのためには今回のセミナーの様に、少数でも影響力のある人々に引き続き情報を提供し続けていくことが重要と思われる。同時に、試験的な試食会なども今後の選択肢に入れ、味のみならず、プレゼンテーション、視覚、舌触り、なども含めオーストラリア人の嗜好を調査することも大切になるだろう。個人の経験から、オーストラリア人はお握りはあまり好まず、うどんよりそば（うどんは舌触り、歯触りが気持ち悪いとのこと）を好み、もちなどべっとりしたものを警戒する傾向がある。

1. **6次化産業の視点からのスワンバレーの魅力**

スワンバレーはパース近郊では試験的な試みを行う地として知られている。スワンバレーの成功はマーガレットリバーに学ぶところが多く、６次産業化もマーガレットリバーの手法を踏襲している。チョコレートファクトリー、Yahavaコーヒーもマーガレットリバーから始まっており、ワインを主観光商品とする点で共通するスワンバレーが観光地として本格的なてこ入れを始めた１０年ほど前からマーガレットリバーの手法を積極的に取り入れている。今後はワイナリーの充実が見込まれ、より多くのワイナリーがレストランやカフェ、また宴会場を備えた複合施設として開発されていくと考えられる。

1. **クラウンホテル突撃営業始末記**

会長にお任せいたします。

1. **その他何でも**

まずは福島県メンバーの方、東邦銀行メンバーの方、企業メンバーの方、そしてKISSメンバーの方にこのような機会を与えていただきましたこと、心よりお礼申し上げます。また、福島県のますますのご繁栄を心よりお祈りいたします。

海外に住むと日本の良さ、うーーむの点、色々なことが日本に住んでいた時よりはっきり見えるようになります。福島の良さ、あるいはうーーむの点も外から見ることでより鮮明になる可能性が高いと思います。民官が協力して行われた今回のような訪豪は福島県の柔軟性、可能性を表していると思います。是非、他都道府県があっと驚くような取り組みを実現してください。どうぞ、どうぞ、是非、是非、実現させてください。素晴らしい意味で、福島がFukushimaになる日を楽しみにしております。

以上